

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103503		
法人名	社会福祉法人 一寿会		
事業所名	グループホーム海の見える家		
所在地	岡山市南区小串827-10		
自己評価作成日	平成21年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370103503&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)東京リーガルマインド岡山支社
所在地	岡山市北区駅元町1-6岡山フコク生命ビル3F
訪問調査日	平成21年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然の中、のんびりとした家庭的な雰囲気の中、共同生活から育まれる家庭的な信頼関係が出来て、自分で出来る事は出来るだけ自分でする事を心掛け、全てのお世話をしてしまうのではなく、ご家庭で自分らしい生活をされていた頃のように、その方らしい生活が維持出来る様コミュニケーションを第一にサポートさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岡山市郊外の、海を前面に見渡る、小高い位置にホームはある。低利用料金で利用者の負担を少なくし、さらに新鮮で安全な食材による、手作りの食事提供を行っており、法人代表者の高齢者福祉に対する深い理解と信念を感じる。職員は代表者の意向を汲み取り、利用者の意思を尊重した、穏かで丁寧な支援を行っている。お茶の時間は職員と利用者が共にゆったりと会話しながら過ごしており、自然な日頃の暮らし振りが窺えた。職員の就業面での配慮が為されており、希望により70歳まで働くことが可能であり、職員の就労意欲向上と継続の一役と為っている。今後は内・外部研修の機会を多くして、さらなる知識や技能の向上努めて頂き、利用者により良い支援提供が継続されることを願いたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲げ誰でも見えるようにして毎日見ているは初心に戻っている。	法人代表者の信条を充分感じる理念が、5か条でホール内に大きく掲げられている。職員は利用者と一緒にのおやつやミーティングなどの集う機会を捉えては確認し、理念の共有を図り、利用者の支援に反映出来るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏の盆踊り、秋の獅子舞等、地域の祭り事には参加。とても喜ばれ楽しみにされている。	代表者が地元に住居しており、地域との交流が暮らしの中で自然に為されている。散歩で挨拶を交わしたり、地元の方が畑で出来た野菜やお花を持って来られ一緒にお茶を飲んだり、秋祭りの獅子舞が訪れたり日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の途中や戸外で地域の方と出会う時積極的に挨拶や会話に努め、近くの学校からの訪問を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では行政からの伝達事項の説明、御家族からの要望、入所者の近況を報告するようにしている。	法人内のグループホームが合同で、行事日に合わせて開催している。家族や町内会長、ボランティアの方、代表者、職員などが参加して、現況報告や、前は制度改正に伴うスプリンクラーの説明なども為され、意見・情報交換の場と為っている。	行事日に合わせている為に、準備期間が必要で、2ヶ月毎の開催が困難である。今後は行事や曜日に捉われずに、参加できる方々で、気軽に意見交換を図る場として開催回数を増やされては如何かと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議等で事業所の実情を説明。より一層の信頼関係を築くよう努めている。	市への提出書類は、持参し直接渡すように心がけており、その訪問時に情報交換を図るようにしている。包括支援センター職員の運営推進会議への参加案内は毎回しており、日頃よりの協力関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないマニュアル本を常に読める所に置き、いつでも誰でも読めるようにし、鍵は常に開鍵にしている。	職員は「身体拘束をしないケア実践の原則」に基づいた支援を日頃より心がけている。以前はやむを得ずベッドに柵をしていた事例があるが、現在は身体拘束の該当者はいない。夜間以外は開錠しており、玄関の出入りも自由である。	「身体拘束ハンドブック」をマニュアルとして充分話し合う機会が少ないようであるが、今後は身体拘束についての正しい理解と認識を再確認する為にも、研修に努め、さらなる向上を目指される事を願う。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、職員にも学んでもらったり、新聞の切り抜きを情報公開している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習等に参加。レポートを全職員が閲覧できるようにしている。必要な方には支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得されている事が分かった時点で捺印してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度の外部評価でアンケート実施その時に意見・要望を述べて頂くようにしている。	家族の来訪時や運営推進会議などの機会を捉えて、意見や要望は何うようにしている。月に一回開かれる管理者会議にて検討されている。職員は家族の要望には、可能な限り添いたいとの思いで対応している。玄関には意見箱が設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をユニット会議で発表。運営に反映させている。	管理者はカンファレンス会議やミーティング時、日頃の会話などの機会を捉えては、職員の意見を聞くようにしており、管理者会議に持ち寄り、検討が行われている。備品購入についてなどが多いが、職員の意見反映が為されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤の回数は本人希望で、ある程度は加減している。人員に余裕がある場合は有給を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の希望があれば優先的に休みが取れるようにし講義内容を他の職員も見れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問、元職員の新しい職場など積極的に訪問。参考にしてサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安感を取り除くよう聞き役に徹し話しやすいような場作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも話し合える環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	大腿部を骨折し、足元不安定な人には主治医紹介のマッサージをお願いし、歩行訓練も含め治療している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若い時活躍していた頃の知恵を聞き、人生の先輩者として接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度は必ず近況を報告して面会が遠のいた時は、さりげなく面会をお願いをする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近況を知らせる手紙を書くよう声かけしたり、その地域の民謡等の話題作りをする。	同一法人内の施設で暮らし交流のあった方が、ホームを訪ねて来られたり、外食の好きな方を回転寿司に案内する事もある。年賀状を書きたい方へのお手伝いをしたりと、利用者が今まで大切にして来た関係や思いを尊重した支援が為されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士をなるべく近くに居られる様配慮し、共通の楽しみを見付ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され入院されても面会には伺い、支援を求められれば相談するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活環境を否定しないで、その人らしい暮らし方が出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの今までの生活や、日頃の暮らしの中での意向の把握努め、思いに添った支援を心がけており、職員は穏かでゆったりとした対応に努めている。意思表示困難な方は本人の立場になって検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	嫌な事ふれられたくない事には刺激しないよう、性格を認識して対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックの結果で対応		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの時介護計画を話し合い、その結果を家族に目を通してもらい意見を伺う。	家族の来訪時に意見や希望は伺うようにしている。訪問が少ない家族へは、電話をしたり手紙を書いて連絡し、状況を伝え意見の把握に努めている。カンファレンス会議にて職員と話し合い、モニタリングし、現状に即した介護計画の作成に努めている。6ヶ月毎に検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌、連絡帳を見れば、一日の流れ、変わった事がすべて分かるように記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズが変わった時点でカンファレンスを開き、サービスの種類をみんなで話し合う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	環境の良い場所なので、山へ散歩し季節の花を摘んだり、つくし、ワラビ、どんぐり等、山菜取りを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設で決まった主治医は月に2回往診をお願いしているが、本人が入所前の主治医に引き続き診てもらいたい人は希望に添っている。	現在ホームの協力病院よりの往診を利用している方がほとんどであるが、本人や家族の希望で以前よりのかかりつけ医へ、職員と一緒に受診している利用者もいる。かかりつけ医との情報交換は為されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	胸水腫の人のチアノーゼ。日頃と様子が異なる時は相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむなく入院された場合は出来るだけ面会に行き、病状を逐一聞き、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族間との連絡を密にして、御家族の意向を第一に考え、その都度の説明責任をはたすようにしている。	職員は家族の意見を尊重し、可能な限り希望に添いたいと思っている。医療連携体制のもと、医師や看護師の24時間対応が可能であり、法人内での協力関係も充分であるが、その都度、家族や主治医と話し合いながら取り組んでいきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを見やすい所に掲げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回、業者と合同で避難訓練を実施。反省点を出すようにしている。	運営規程に基づき年に1回の避難訓練が実施されており、平成21年度は4月に実施している。業者や消防署の協力による消火器具の点検や消火についての指導も受けている。運営推進会議時に消防法の改正についての意見交換が為されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁・失便等は回りに気付かれない様、声かけ、さりげなく居室誘導し、素早い対応に心がけている。	利用者の出来る事を尊重した対応が為されており、編み物をする方、和裁が得意で、今も針を持ちボタン付けや繕いをする方などがある。排泄時失禁をした利用者に、他に気付かれない様に居室へ誘導し、さりげなく対応している職員の姿があった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に添うよう否定しないで、居心地いい生活が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応1日のパターンが決まっていますが、体調によって本人の意志決定にまかせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方には季節に合った物が着れる様、分かりやすい所に置き、介助の必要の方には、2・3点見て頂き本人に決めて頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を作成する時、入所者に食べたい物を聞いて取り入れたり、能力に添って、台拭き、下膳等手伝ってもらう。	職員が順番に、利用者の希望を取り入れ献立を作成している。野菜の皮剥きやお茶のバック詰め、下膳などと、自分の出来る事をして頂いている。職員は利用者と一緒に食事をしており、自然な会話のあるゆったりとした食事光景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初めの体重を見ながら量を加減し、水分量が少ない時は好みの飲物等にして、水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立の方には声かけ、介助が必要な方には、誘導補助的な介助をし、夜間は義歯洗浄剤につけて置く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、さりげなく声かけ誘導し失敗を出来るだけ少なくしている。	利用者それぞれの排泄パターンを把握して、個別の排泄支援が為されており、排泄チェック表により確認している。本人の希望で昼間にポータブルトイレを使用している方もいるが、可能な限りトイレでの排泄を心がけ、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を見ながら間隔があくと繊維質の物をなるべく摂って頂いたり、廊下歩行を勧め最終的には便秘薬を服用して頂く		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴日、入浴時間を希望に添って実行出来るよう支援している。	基本的には1日おきの入浴であるが、本人の希望に添うようにしている。バイタルチェックを行い、安心して入浴して頂いており、季節感のある柚子湯や菖蒲湯などを行ない、入浴を楽しめるような配慮が為されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢者にはお昼寝してもらい、少しでも体を休め体力維持に努め、個々の入眠時間を把握するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	便秘薬等は、排泄表を見ながら用量を加減し服用してもらう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野(台所・縫物・歌・読書)を把握し、積極的に参加して頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して、初詣、お花見、紅葉狩り等は全員参加。その他希望者により買い物、外食、病院はその時により実施している。	散歩時にサカキを採ったり、季節によっては土筆やわらびを採取したりしている。また本人の要望に従って買い物やドライブに行く事も多い。行事としてお花見や紅葉狩りが実施されている。気候が良い時期はホーム外のベンチで寛ぐこともあり、希望に添った外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時（買い物・外食時）決まった額のお金を渡し、本人に支払いをまかせる様になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等は本人が書ける様お手本を用意し、名前だけでも自筆で書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・廊下・トイレには手すりを設置。ホールの目に入りやすい所に1ヵ月ごと季節感のある壁飾り作りに入居者が参加される。	玄関に入ると開放的な居間が続いており、窓からは海が見渡す事が出来る。清潔で家庭的な落ち着いた場となっており、ソファーに座りカラオケを楽しむ方、食後にリクライニング椅子で昼寝をする方などが見られた。清潔で温度や湿度にも配慮が為されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのいつも決まった自席ではなく、ベンチを2ヶ所設置。一人になりたい時はそこに座られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用されていた家具、ぬいぐるみ、写真等居室に配置している。	居室が広く、ベッドはホームが提供しているが、利用者が今まで使っていたテーブルや椅子、衣装ケース、テレビ、冷蔵庫などが好みで配置されている。たっぷり収納できる押入れもあり、利用者それぞれが居心地良く過ごせる場と為っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には段差がなく、手すりを持ち、トイレ・ホール・居室と自立歩行出来るようになっている。		